



## 畜産安心ブランド認定事業早や4年

HACCP方式を取り入れた安全・安心な県産畜産物を消費者に提供します。

安全安心かつ高品質な食品に対する消費者ニーズが高まっている中で、健康な家畜を飼育し安全な畜産物を供給するため、HACCP方式の考え方に基づく衛生管理手法を畜産農家に普及・推進し、本方式を導入し認定基準に合格した農家を「畜産安心ブランド生産農場」として認定し、消費者に対し安全・安心な畜産物の供給体制を確立するとともに、県産畜産物の拡大を図ることを目的とし、当協会が県の補助事業により、平成15年度からクリーンポーク生産農場を、平成17年度からは全畜種を対象に畜産安心ブランド生産農場を認定して、早や4年が経過し本事業も定着し農場、流通関係者及び販売店等で有利販売の兆しがみられます。

### 1 認定状況

新潟県は平成12年度から畜産農家に対し家畜飼養衛生管理マニュアルによる飼育指導を実施し、平成14年度から16年度には畜産農家に対しHACCP方式を導入する経費の一部を補助するなど、本事業を推進し普及率概ね40%を目標として県全体の畜産農家に対する波及効果が狙いです。

現在、肉用鶏は全飼養農家が認定されましたし、採卵鶏48.7%、豚36.4%と順調に普及しています。今後は乳用牛飼養農家及び肉用牛飼養農家に対する普及啓蒙指導が必要です。

○認定農場数 (平成19年3月1日現在)

項目	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	計
農場数	12	25	71	19	15	142
認定率(%)	3.3	6.9	36.4	48.7	100	14.5

### 2 認定制度の活用状況

認定農場に対するPRについては、当協会でもパンフレットの作成、消費者懇談会、畜産イベント及び農場研修会等で紹介していますが、畜産農家、流通業者及び販売店がチラシ及びパンフレット等を独自に作成しPR作戦を展開しています。また、市町村の地域広報誌に掲載するなど地産地消をPRしています。

○農場PR(農家数) (平成19年3月1日現在)

項目	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏
加工販売(ジェラート)	2				
チラシ・パンフレット	1	2	21	5	
マークの活用	1	1		1	
ホームページ	1		1	2	

### 3 今後の方向

- (1) 認定農場の飼養衛生管理の向上と継続及び認定農場以外の農場に対する普及
- (2) 生産物の有利販売地産地消の推奨及び畜産物の生産拡大
- (3) ロゴマーク等を利用した消費拡大PR作戦の展開

## 高品質な生乳生産に向けた 地域ぐるみの取り組み

### はじめに

新潟県では平成17年度から畜産安心ブランド推進事業を開始。豚、肉用牛、採卵鶏及びブロイラーについて畜産協会と連携し、認定事業が実施されてきた。平成18年度から残る乳用牛についてもクリーンミルク生産農場の認定が行われるため、それに備えて安全・安心な生乳生産に向けて取り組みを行ってきたが、酪農は他畜種と異なり、出荷・販売ルートが一元化しているため、地域ぐるみでの取り組みが重点課題であった。そこで、今年度はモデル地域を選定し、高品質な生乳生産に向けて関係機関と連携、地域ぐるみの取り組みを推進したので、その概要について報告します。

### モデル地域の選定

A農協内Y酪農組合の組合員14戸を選定。飼養規模は成牛6頭から44頭、畜主年齢は44歳から73歳、後継者がいる農場は2戸であり、一人の獣医師が管理獣医師として定着しています。

### 関係機関の連携

酪農組合員、管理獣医師、農協、地域NOSAI、地域振興局及び家畜保健衛生所を推進メンバーとして地域説明会を開催、事業概要及び実施計画の説明を行い、各関係機関が連携して地域全戸の乳質向上を目指し、地域ぐるみで取り組みを開始しました。

### 家畜保健衛生所の取り組み

家畜保健衛生所では農家巡回を行い、①飼養衛生管理基準の周知徹底、②衛生管理記録簿の整備、③搾乳方法の見直し、④生産現場でのCMT変法（以下PL検査）実施による乳房炎牛の早期発見・管理獣医師による早期治療等の指導を行っています。

### 成果

前年度の飼養衛生管理基準の調査で改善の必要性が認められた項目全てで改善が見られ、衛生管理記録簿は全戸で完備。生産現場でのPL検査実施等、乳房炎早期発見の意識が高まり、乳房炎検査数は3戸延べ9回、29頭100分房（H17）から6戸延べ15回、96頭396分房（H18）となり検査依頼が増加。パルク乳中平均体細胞数は30.1万/ml（H17）から24.7万/ml（H18）に低減し、格差金支払い回数（支払い回数/検査回数）は19.9%（H17）から11.6%（H18）に減少、Y酪農組合生産者グループ14戸中6戸が認定基準クリア、うち2戸が認定されました。

### まとめと課題

地域一丸となって取り組みを実施し、高品質乳生産に向けて生産者グループ全体が意思統一できたことは大きな成果でありました。また、飼養衛生管理基準の遵守及び記帳の改善、搾乳方法改善・生乳品質向上等の成果が得られ、6戸が認定基準クリア、うち2戸が認定に至ったが、地域生産者の高齢化、後継者不足など農家個々の衛生レベルの差が今後の課題と思われました。来年度以降も地域で行ってきた取り組みを継続し、更なる乳質の向上、他地域への拡大につなげたいと思います。

（中央家畜保健衛生所）

認定農場：牛舎内風景



通路に石灰を散布し清掃が行きとどいています。